

文化資源学会 特別講演会

地域の文化資源 とミュージアム

文化資源学会 特別講演会

2019/07/13 (土)

14:30-17:30
東京大学本郷キャンパス
法文2号館1番大教室

*会員以外の方も参加可能です。
*申込不要、参加無料

■スケジュール■

14:30- 開催趣旨

稲庭彩和子 (東京都美術館)

14:35- **【講演1】星野有希枝「新・文化庁へー京都移転と地域文化創生本部の活動を中心に」**

15:30- **【講演2】佐々木史郎「文化多様性とミュージアムー国立アイヌ民族博物館の試み」**

16:30- **【コメント&質疑応答】**

コメンテータ: 栗原祐司 (京都国立博物館・ICOM京都大会運営委員会)

近年、博物館や美術館には文化財を「活用」することが強く求められ、国内の文化政策は新たな方向に舵がとられてきています。2020年のオリンピック・パラリンピック開催を前に文化庁は組織改編を経て京都移転を開始し、その京都では9月初旬に国際博物館会議 (ICOM) の3年に一度の大会が日本で初めて開催され、世界約130カ国から3000名もの博物館・美術館関係者が京都に集まります。開催期間の約1週間は日本の文化資源やミュージアムの現状に対し国際的なレベルの多様な関心が集まり、交流により文化をめぐる視野が広げ深められる機会となるはずです。オリンピック・イヤーとなる来年には石川県金沢市に国立工芸館、そして北海道の白老ポロト湖畔に新しい国立博物館である国立アイヌ民族博物館が開館を予定しています。

今回の特別講演会では、文化資源やミュージアムを巡って様々な考えや動きが出てきている近年の状況をふまえ、京都、北海道のそれぞれの視点からお話をいただき、2020年とそれ以後に向けて、今私たちが認識すべき重要事項について考えを深めたいと思います。



星野有希枝
(文化庁 地域文化
創生本部事務局地域
文化創生室長)



佐々木史郎
(国立アイヌ民族博物館
設立準備室主幹)